

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

東アジア文化交渉学会第 11 回国際学術大会

(The 11th Annual Meeting of the Society for Cultural Interaction in East Asia)

2019 年 5 月 10 日 (金) ～ 13 日 (月) エアランゲン (ドイツ)

国際コミュニケーション学部 伊伏 啓子

北 陸 大 学 紀 要  
第47号(2019年9月)抜刷

## 外国学会発表報告

### 東アジア文化交渉学会第 11 回国際学術大会

(The 11th Annual Meeting of the Society for Cultural Interaction in East Asia)

2019 年 5 月 10 日 (金) ~13 日 (月) エアランゲン (ドイツ)

国際コミュニケーション学部 伊伏 啓子

発表題目：早期西方人の汉语研究 -19 世紀上半叶西方人如何理解汉语形容词

ドイツ南東部バイエルン州エアランゲン市のエアランゲン・ニュルンベルグ大学において、2019 年 5 月 10 日から 13 日の 4 日間、“東アジアの知識の変遷と超越——科学技術史におけるグローバルネットワーク”というタイトルで東アジア文化交渉学会第 11 回国際学術大会が開催された。29 のパネルが生まれ総勢 130 名近い発表者が英語や中国語で発表を行った。

東アジア文化交渉学会  
(The Society for  
Cultural Interaction in  
East Asia) は「東アジア  
での文化生成・接触・衝  
突・変容・融合等の諸現象  
を動的に把握し、トー  
タルな文化交渉のあり方  
を人文学の多様な方法を  
総合して複眼的な見地か



ら解明する」ことを目的に 2009 年に設立された学会である。「東アジアでの文化交渉」とは「東アジアでの東西文化交渉」と「東アジア諸地域間の文化交渉」の両方を含んでいる。これまで日本や中国の各都市、また韓国において年次大会が開催されていたが、今年初めてヨーロッパで開催された。

会場となったエアランゲン・ニュルンベルグ大学はバイエルン州第二の都市ニュルンベルグから普通列車に乗って 20 分ほどしたところにあるエアランゲン市にある。エアランゲンは人口約 11 万人の静かな大学町で、シーメンス (Siemens) の医療機関部門もあるところだ。研究発表が行われた建物は、街の中心に位置する城館庭園(Schlossgarten)内にある美しい建物で、開催校であるエアランゲン・ニュルンベルグ大学の中国学教授マーク・マッテン (Marc A. Matten) 先生とその院生たちが世話をしてくださった。お手伝いの院生たちは皆中国語が上手で、我々をみて日本語を話してくれる方もいた。欧米で東洋学を学ぶ学生たちは中国語と日本語など、複数の東アジア言語を学ぶ学生が少なくない。彼らの話ずきれいなことばにいつも驚かされる。



私は三日目のパネル 19「東西言語接触の研究」において、個人発表「早期西方人的汉语研究 -19 世紀上半叶西方人如何理解汉语形容词」を行った。本発表は 19 世紀のイギリス人中国学者であり、のちに日本でお雇い外国人として活躍したジェームス・サマーズ (James Summers 1828-1891) がロンドン大学で中国語教育を行った際に編集した教科書 *A Hand Book of the Chinese Language*.1863 を分析するため、それ以前の 18 世紀から 19 世紀前半に編纂された中国語文法書、例えばヴァロ (Varo1703, *Arte de la Lengua Mandarina.*)、プリマーレ (Premare1833,

*Notitia Linguae Sinicae.*)、モリソン (Morrison1815, *A grammar of the Chinese language.*)、ギュツラフ (Gützlaff1842, *Notices on Chinese grammar.*)、エドキンズ (Edkins1857, *A Grammar of the Chinese Colloquial Language Commonly Called Mandarin.*) などを資料として当時の西洋人の中国語研究の一部を明らかにしようとするものである。今回は特にこれらの文献の「形容詞」の項目にみられる語彙や表現方法を収集し、その記述を分析することにより、19 世紀前半の西洋人研究者によって中国語の形容詞はどのように理解され、どこまで把握されているのか発表した。19 世紀以前はラテン語の枠組みを利用して中国語文法を記述する文法書が多く、形容詞は名詞の一部として説明されていたが、19 世紀に入ると形容詞は一つの独立した品詞として説明が行なわれる。サマーズは *A Hand Book of the Chinese Language*.1863 の形容詞の節で、一語からなる形容詞と二語以上からなる形容詞を分け、「原型形容詞」・「派生形容詞」・「複合形容詞」3 種類の形容詞を説明する。これは同著の名詞の項目に共通する記述方法であり、語構成に注目して中国語文法を説明しようとする彼の姿勢がここに見られる。発表後はフロアから貴重な意見をいただき、今後も修正を加えながら研究を進めてゆくことにした。



エアランゲンを訪れたのは今回で 4 回目である。大学院博士課程に在籍していた頃、初めて研究員として 1 年間エアランゲン大学中国学研究科にお世話になった。今回の学会でその時にご指導いただいた Michael Lackner 教授をはじめ、アシスタントとして多方面からサポートしてくださった現フランクフルト大学 Iwo Amelung 教授、また同じ研究員として一年間生活を共にした現復旦大学孫青准教授にも再会することができた。5 月のドイツは新緑が非常に美しく、朝晩は少し冷えこんだが日中は過ごしやすい気温で、会議の合間に街の散策も楽しんだ。また、夜は 20 時ごろまで明るく、皆でゆっくり食事を楽しむこともできた。ドイツはちょうどホワイトアスパラガスが旬の時期で、レ

ストランで何度も口にしたりした。学生時代を懐かしんで、以前住んでいた大学のゲストハウスにも足を運び、1 年間生活した半地下のワンルームを外から眺めながら、友人と思い出話にも花がさいた。研究発表に懐かしい友人達との再会も加わり良き滞在となった。